

意外な 当社製品を紹介します

本企画では、「この会社、こんなものも作っていたんだ！」
主力製品とは異なる分野、用途で活躍する意外な製品を紹介します。

木田バルブ・ボール 株式会社

所在地：大阪府東大阪市玉串町東3丁目1番36号

設立：1964年

資本金：4,500万円

従業員数：80名

主力製品：ステンレス製バルブボール

(国内シェア60%でトップシェア)

石油プラント、水力発電所、
火力発電所で使われています



創業以来50年以上にわたりバルブボールの製造を行う同社。主要バルブメーカーに高品質な製品を提供し続け、ステンレス製バルブボールでは国内60%のトップシェアを誇ります。同社における生産全体のおよそ30%は特殊な耐摩耗バルブボールで、この球体形状には、真球精度0.1～0.3 μ mで加工する真球加工技術(切削)と、表面を滑らかに磨く研磨加工技術(研磨)が必要となります。この球体加工技術こそが他社を寄せつけない固有の強みです。海外メーカーでは難しく、国内企業であっても、この両方を高精度で実現できる企業は非常にわずかとされています。そのため、石油プラントや水力発電所、火力発電所などの納入実績が多数あり、大手バルブメーカーから高い信頼を得ています。

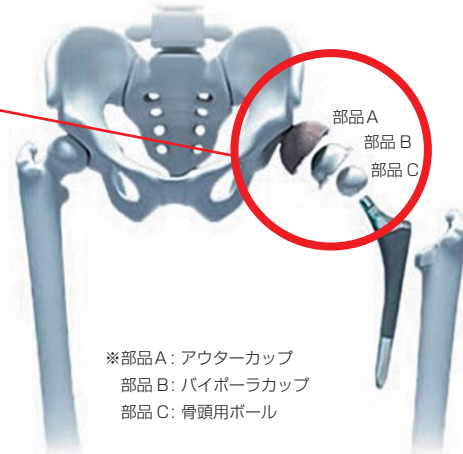
PickUp ▶▶▶

人工股関節パーツ

「骨頭用ボール」「アウターカップ」「バイポーラカップ」



「人工関節」とは、病気や怪我でダメージを受けてしまった関節に取って代わり、正常な関節の動きを取り戻すために体内に外科的措置によって埋め込む医療部品です。



長年培ってきた、唯一無二の球体加工技術を活かし、およそ15年前から医療分野に進出。人工股関節の一部の球体部品(直径20～36mmほど)を生産しています。球体の真円度と表面精度がミクロン単位で求められる医療分野において、同社は、サブミクロンの精度を実現しています。体内に埋め込みパーツ同士が動く人工股関節は、摩耗によるゆるみが生じます。「真球度」と「表面粗さ」の精度を向上させ、耐摩耗性を高めた製品は、大手人工関節メーカーから注目されています。

人工股関節パーツを手がけようと考えられた背景を教えてください。

私が入社した26年前は、業績は悪くないが、いつまでも言われたものを作るだけではダメだと感じました。そんな中、当社のホームページを見た商社から「人工股関節に使用するボールの切削研磨はできませんか?」と問い合わせがありました。事業をさらに展開したいとの考えも相まって、工業用よりも10倍の精度が求められる、いわゆるサブミクロンの医療市場に進出。関節用部品というジャンルは非常にニッチですが、高齢化が喫緊の課題である国内において、さらにニーズが増えることが予想されます。ドイツのMEDICA(医療機器展示会)に出展した際、海外企業との取引は始まらなかったが、来場していた日本企業の担当者となつながら、取引がスタート。累計販売実績は15,000セット(2020年1月現在)を超えています。



代表取締役社長

木田 浩史 氏